

Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 12



H28.12.22

今月のキーワード

小・中学校英語研修

小中合同授業

小・中学校英語研修、小中合同授業と12月は2週に渡って市内の英語研修が実施されました。会場の先生方、授業を提供して下さった先生方、参加された先生方には大変お世話になりました。僅かな部分ではありますが、研修内容についてまとめました。参加できなかった先生方も、是非御一読いただき、参考にしてください。

小・中学校英語研修

12月9日(金)、南河内中学校の渡邊沙織先生に、3年生の英語の授業を公開していただきました。

<授業のねらい> 関係代名詞を用いてグループでオリジナルCMを作ることができる。(書くこと)

<授業の主な流れ>

- ① 導入で、関係代名詞を用いたペアでの対話(パターンプラクティス)を行い、本時の学習へとつなげる。
- ② ねらいを提示し、まず始めに教師がALTとCM作成のモデルを示す。
- ③ CMを英訳する際の留意点について確認する。
- ④ グループで協力して、CM作成に取り組ませる。



・教師がCM作りの見本を示すことで、生徒は活動の見通しをもつことができました。

・作成したCMを、「誰に・いつ」伝えるのかを提示することで、生徒は活動の目的意識・相手意識をもつことができました。

<班別協議の内容> テーマ:「慣れ親しみ」を「表現・理解の能力」につなげる小中連携

生徒の学びの姿から、「小学校外国語活動の学習内容が中学校へつながっている点」、「小・中での指導の系統性」について、中学校区ごとに協議を行いました。

★協議を通して出た話題(抜粋)

- ・「聞く」 小・中ともに日頃から聞く活動を継続することの大切さ。
小・中でのクラスルームイングリッシュの速さの違い。
クラスルームイングリッシュの内容や語彙の工夫。
- ・「話す」 小学校からインプット量を増やしていくことが、中学校でのアウトプットにつながること。
発表の際の評価規準を中学校区等で揃えること。(例:相手の目を見る・原稿を見ない)
- ・「読む」「書く」 フォニックスを効果的に活用するための工夫、指導者の共通理解。
- ・興味・関心を高める教材 身近な話題をもとにした教材づくり。デジタル教科書、ICT活用の工夫。





小中合同授業

12月16日(金)、国分寺小学校において、国分寺小6年3組(担任:大塚雅人先生)、国分寺中1年2組(英語科:加藤修司先生)、ALTのJoe先生による小中合同授業が行われました。



中心となる活動

「人物やキャラクターの特徴についてグループで紹介する」

- ・総勢67名の児童生徒が体育館で授業を行いました。最初はお互い緊張気味でした。

<授業の流れ①~③>

- ① 隣の人と挨拶を交わした後、Frenzy Game(同じカードをもっている人を探す)を行いました。
- ② 小・中学生2人ずつの4人グループで、紹介する人物やキャラクターについて4つのヒントを考えました。
(例:ジバニャン・ピコ太郎・名探偵コナン)



中学生がリーダーシップをとってヒント作りを進めました。小学生も積極的にアイデアを出し、協力して発表の準備を行いました。英単語をスラスラと書いている中学生を見て、小学生は「来年は自分もこんな頼もしい中学生になれるのかな・・・」と思ったことでしょう。

- ③ クイズ大会を行いました。小学生も大きな声で堂々と発表していました。



クイズ例 He is Japanese. He is short.
He has glasses He is a child.



「小学生ならではの発想や視点がクイズ作成に活かされた」「中学生は上級生としての責任感をもって活動に取り組み、班員全員が活躍できるような気配りも感じられた」など、参加者の先生方にとって、子どもたちの姿を通して学ぶことが多くありました。

今後も、子ども同士、教員同士がつながる機会を作り、学びと成長をつなげる一貫教育を進めていきましょう。



Merry Christmas & Happy New Year!

良いお年をお迎えください。

文責:学校教育課 稲葉 亜希恵